

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

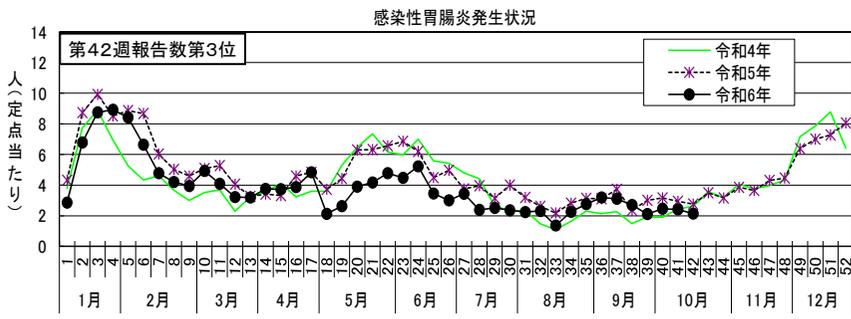
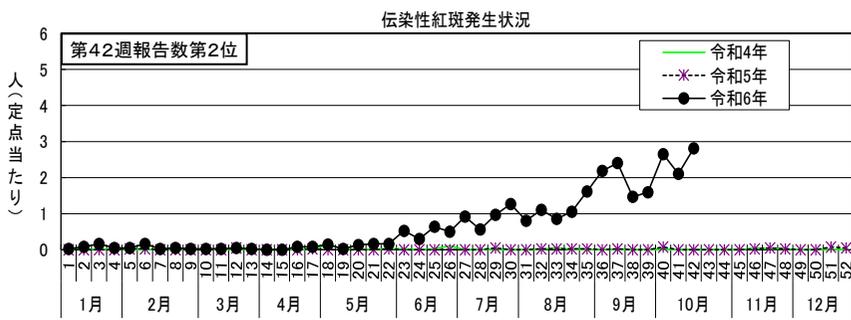
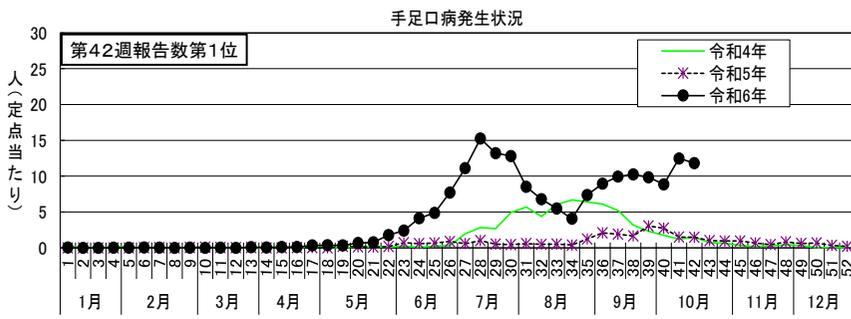
令和6年10月14日（月）～令和6年10月20日（日）〔令和6年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 伝染性紅斑 3) 感染性胃腸炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は11.84人と前週（12.49人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.81人と前週（2.11人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週（2.41人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



梅毒の報告数が急増し過去最多に～先天梅毒を防ぎましょう！～

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により感染します。初期には潰瘍や皮しん等の皮膚症状がみられますが、未治療のまま放置すると心臓や血管等に病変が生じ、時には死に至ることもあります。特に妊婦が感染した場合、流産、死産となる可能性や、胎児の神経や骨等に異常をきたす「先天梅毒」を発症する可能性があり、大きな問題となっています。

川崎市における梅毒の報告数は、令和6年第42週（10月14日～20日）に8件と急増しました。年間の報告数は現時点で計131件と、感染症法*が施行された平成11年以降最多となり、先天梅毒の報告はないものの、妊婦の感染例はみられています。先天梅毒を防ぐには、妊婦への適切な抗菌薬治療が重要ですので、感染が疑われる場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

*感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

先天梅毒とは？

【症状】
 出生時は無症状のことが多い。
 ・早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）
 皮膚症状、肝脾腫、骨軟骨炎等
 ・晚期先天梅毒（生後約2年以降に発症）
 角膜内部の炎症、感音性難聴、歯牙変形等

【予防】
 定期的な妊婦健診、疑わしい症状がある場合の検査、早期治療、妊娠中の安全な性交渉

【治療】
 抗菌薬治療

